

(1) 単元名： 分数

(2) 本時の目標： 分数の大きさ比べと、等しい分数のつくり方。

名護市立屋我地小学校。H24年度より、園原校長先生が赴任し『学びの共同体』の理念による学校経営、授業づくりに挑戦である。前年度も2回ほど訪問し理論研修をした。本日も理論研修の依頼であったが、私の方から、研究授業の実施を依頼した。快く公開授業にに応じてくれたのが、5年担任のJ先生である。感謝！

右の写真、授業終了後に給食の準備に向かう女の子が、先生に話ってきた。何か「話したい」のだろう。教師は足を止めて女の子の話に心を傾ける。両者とも笑顔である。この日常の「聴き合う」がいかにか大事であるか。「先生は私の話を聴いてくれるから・・・」である。『人は、私を受け入れてくる人にしか心をひらきません。』



☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。

【深い学びは整然とした中で】



深い学びは整然とした環境でしかなんて期待できない。ロッカーや棚の整理整頓は常に気にかけてたい。「聴き合う」に教師の声掛けが必要である。定着まで常

【休み時間の風景。個が認められ安心がある教室】



教室は、すべての子ども達にとって「安心」の場なくてはならない。自分たちや、自分が居心地のいいところなくてはならない。自分のペースを大切にされたい。



【授業の始まり】 淡々と授業が始まる。授業者のテンションも低く静かである。分数の単元導入である。授業者は、既習の学習を振り返り「真分数」「仮分数」「帯分数」などの基本的な用語を確認する。



基本事項を確認したら、「今日は分数の大きさ比べです。」めあてを確認した。分数カードをもって「学び合い」に入る。

課題が下りると、子ども達はすぐに向き合い互いの「考えのすり合わせ」に入る(写真①)。授業者は、子ども達の思考を促すために分数カードとホワイトボードを準備した。

一人も取り残される子が見あたらない

課題1.

$$\frac{2}{3}, \frac{3}{6}, \frac{3}{3}, \frac{2}{4} \text{ を小さい順に並べましょう。}$$



【 学び合う=支え合う=分かり合う 】 分からない者が、「分からない」と言える学級だからできる。



写真②



写真③

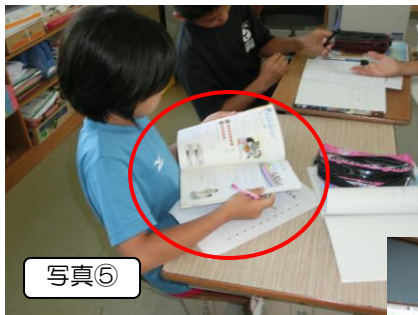
写真②、男の子が「意味分かん」とつぶやく。3分の1と、4分の1の大きさの違いや意味が分からないという。向かいの加奈さんと華さんが、ホワイトボードを使って、ケーキの絵図を書き、「3つのうちの1つ分と、4つのうちの1つ、どっちが大きい？あんだったらどっち取る？」

実にあっさり説明した。男の子も簡単に納得していた。授業者の見えないところで、子ども達

はしっかり支え合っているのである。「分からない」が言える教室、頼られたら親身になって支え合う学級の仲間たち。困り感ある子を見捨てない日常の教師の姿勢が、二人の女の子に映し出されたシーンである。



【共同的学び】



写真⑤

「みんなで協力してやって」教師の一声で写真④である。左端の男の子が気になるが、写真⑧でも確認できるが投げださないのである。周りの仲間も見捨てないで声を掛け合っている。皆で分かりたいのだ、皆分かってほしいのだ。



写真⑥

写真⑥、右の女の子に見やすくプリントを差し出す女の子である。このさりげない気遣いがうれしい。写真⑦、各グループでそれぞれまとめられる。分かりやすくである。

「きく・つなぐ・もどす」は授業者の大切な行為である。写真⑤、女の子は、授業者に声をかけられることもなく、自分からテキストにもどり、確認している。さらに、仲間につないだのである。



写真④



写真⑧

写真⑧、夢中になると身を乗り出す。私が学び合う授業を見てきて何度も目の当たりにするシーンである。「姿勢が…」という教師も確かに居るが、それよりも大切にされなければならないことがあるはずだ。



写真⑦

【教師の位置】



身を低くして子どもに寄り添う授業者。目線を同じにする。それだけで変わるのである。

【共有する】



できるだけ子ども達の声で共有したいが。まあ～今日は時間的に厳しかったかな？

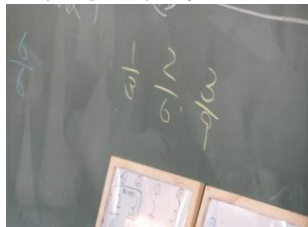
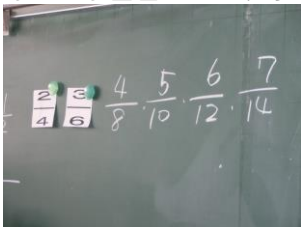
【似てないですか（モデリング）】



2枚の写真の授業者と将也さん、似てないですか？偶然にも指差しているところも同じですね。もし将也さんが教師の行為を勝手に真似しているのであれば、これはすごい「まねび」モデリングです。

【同じ大きさの分数をつくる】

授業者：同じ大きさの分数を見つけるヒントはなに？  
将也：分子や分母が同じ数だけかけられている。  
あっさり回答したが、すごい気づきである。



【ジャンプ課題】分数を小さい順に並べる。

要領を得た子ども達はすぐに課題に飛びついた。「待ってました。」と言わんばかりの表情である。「難しそう」が「楽しそう」になり、意欲をそそる。



「先生ありがとうございました。素敵な子ども達ですね。先生の日常の学級経営がはっきりとうかがえました。子どもが教師を味方する。

先生の話を「分かってあげたい」「分かりたい」。右の写真、先生の話を聴いている時の子ども達の表情を見て下さい。左下の男の子なんか「意味わからん」と発言していた子ですよ。ほんとに素敵な子ども達です。

静かな女の子たちも「私たちに」が、許される、認められている、学級です。授業公開に教師が身構えていないので、どの子もリラックスし日常をちゃんと演出していました。『先生がいるから安心して臨んでいる。』素敵な授業ありがとうございました。感謝します。

